

カイガラムシへの対策

浸透性の高いネオニコチノイド系農薬は、殻をかぶって幹や実
に寄生するカイガラムシに効果が高い農薬です。カイガラムシが
りんごの実につくと、斑点などがでて規格外品になってしまうの
で、ネオニコチノイド系農薬を使わない栽培ではカイガラムシ類
の生息密度を下げなければなりません。山下さんは春先に、発生源
とみられる雑木林にマシン油を散布してカイガラムシ防除をして
います。実が大きくなってくる夏以降の飛来に備えて対策が続い
ています。



← 害虫の交尾を阻止するフェロモン剤
が取り付けられた樹

極端化する気候への対応も課題に

昨年は、秋以降の天候不順で降水量が例年の1.5倍、曇天も続
いたため、年明けの「ふじ」で実の褐変が出ました。今年の春先は
例年より雨が多く、山下さんは「この時期に感染しやすい黒星病や
黒点病の発生を心配しています」とおっしゃっていました。どの圃
場もりんごの花の開花が終わり、着果が始まっていましたが、この
時期に黒点病などに感染すると、りんごが実ったときに表面に黒
い斑点がつき、商品価値が下がってしまうそう。

山下さんは、圃場に設置した計測器から気温や降水量などのデ
ータを集約し、農薬の適期散布に努めていました。他に、腐らん病
といって、幹に感染すると時に枝ごと伐採しなければならない病
気もあるそうで、実際に治療中の枝を見ました。長野県では温暖化
対策として、早生種「つがる」など豊産種ながら管理が難しい品種
に代わる新しい品種（「シナノリップ」など）を育成しているそう
で、山下さんも実際に導入を試みています。



← 関さんの圃場

産地に思いを馳せて

おいしいりんごが私たちに届くまでには、病虫害対策に加えて、
除草剤を使わないゆえの雑草管理（デモ用ですが・・・自走式のかわ
い除草車が草を刈っていました！）、年数回にわたる摘果、冬の
剪定など、多くの手間が必要です。山下さんは「お盆以降の高温、

極端な降水量など、近年は天候による影響も出てきています」とお
っしゃっていました。

よつ葉生協では、秋にさみずへの再訪問を予定していますので、
生産者の皆さんへのメッセージなど、ぜひお寄せ下さい。脱ネオニ
コチノイド農薬の輪をよつ葉生協から広げていきましょう。そし
て、生産者のみなさんの日々の努力に思いを馳せ、産地の好天を願
いながら、秋の収穫を楽しみに待ちましょう。

(理事 三輪)



← 浦辺さんのりんごの木



ネオニコチノイド系農薬を使わない社会を！

5月5週の「くらら」と一緒にお届けした「ネオニコ系農薬」
の冊子。ネオニコフリーの想いを多くの地域で広げようと、
ネットワーク21参加生協が協力して作りました。

わたしたちの暮らしの中にあふれる
ネオニコチノイド系農薬
ネオニコ農薬

虫は殺すが
人には安全なんだって

環境保全型
農薬なんだって

少量で効果が
ながもち
するんだって

有機リン系農薬より
安全だって

ネオニコ農薬でできる
減農薬野菜は安心...

ちょっと待つて!!

ネオニコ農薬3つの特徴

洗っても落ちない
浸透性

長期に残留する
残効性

神経を狂わす
神経毒性

世界の動きはすでに
「脱ネオニコ農薬」へ

日本では
「ネオニコ農薬」が
様々な商品に
使われています